

# 平成 25 年度 第 3 回北見市廃棄物減量等推進審議会 報告書

日時 平成 26 年 3 月 12 日 (金)  
14:00~  
会場 クリーンライフセンター会議室

## ○出席委員

堀内 淳一 委員、成田 禅 委員、堀澤 和子 委員、渋川 和巳 委員、葛西 恭博 委員  
高橋 英雄 委員、吉田 勝一 委員、石澤 修 委員、坂口 信一 委員

## ○欠席委員

近藤 明代 委員、渡部 正勝 委員、谷嶋 宏之 委員、高島 忠弘 委員、辻 都美子 委員、  
齊藤 伸一郎 委員、

## ○事務局

北見市市民環境部長 伊藤 富士夫、市民環境部次長 今 豊明、  
クリーンライフセンター所長 長谷川 英則、廃棄物対策課長 岩谷 秀則、  
端野総合支所市民環境課長 赤間 修一、常呂総合支所市民環境課長 土島 行雄、  
留辺蘂総合支所市民環境課長 安井 留美代、  
クリーンライフセンター庶務担当係長 野口 晴男、廃棄物対策課計画担当係長 大江 良一、  
廃棄物対策課スクラムミックス担当係長 齊藤 秀広、廃棄物対策課減量推進担当係長 佐々木 秀光、  
廃棄物対策課啓発担当係長 小林 勉  
廃棄物対策課課員 小林 一水、古川 晋也、今野 えりか

## ○報道機関

北海道新聞、経済の伝書鳩

## ≪議事録≫

今次長	<p>本日はご多忙にもかかわらず、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今より、平成 25 年度第 2 回北見市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。</p> <p>私、市民環境部長の今でございます。宜しくお願い致します。</p> <p>はじめに、委員の変更について報告いたします。北見商工会議所から推薦をいただいております福地委員が退任され、新たに渡辺正勝様が委員となられ、委嘱させていただきましたことを報告します。</p> <p>それではここで、渡辺様、自己紹介をお願いいたします。</p>
-----	---

渡部委員	どうぞよろしくお願ひ致します。
今次長	渡辺様ありがとうございます。 続きまして、市民環境部長、伊藤部長より挨拶申し上げます。
伊藤部長	<p>市民環境部の伊藤でございます。</p> <p>本日は、基本計画の中間見直しに向けた第2回目の審議会でございますが、年末のお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>ごみの状況につきましては、ここ3年間、1%ずつの増加傾向にあります。平成17年の有料化実施後、基本的な分別体制が整理されており、今後、ごみの大幅な減量化は容易なことではありませんが、適正な分別をはじめとして、各家庭、事業所等での減量化の啓発活動に力をいれていくことが、重要と考えており、後期計画で実行性のある取り組みが求められます。</p> <p>この審議会で、委員各位の様々なご意見、ご議論をいただく中で、計画の施策に反映できればと思います。</p> <p>簡単ではございますが、冒頭の挨拶とします。</p> <p>本日はよろしくお願ひいたします。</p>
今次長	<p>議事に入らせていただく前に、事務局より諸般の報告を致します。</p> <p>本日の審議会は、委員名中11名の出席でございます。</p> <p>近藤委員、扇谷委員、葛西委員、辻委員からは、本日所要のため欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>よって、過半数以上のご出席をいただいておりますことから、北見市廃棄物の減量促進、処理及び清掃に関する条例施行規則第20条第2項の規定により、審議会が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>これ以降の進行につきまして、堀内会長にお願ひいたしますのでよろしくお願ひいたします。</p>

堀内会長	<p>それでは、引き続き、議事次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>本日の審議会では、9月3日の第1回審議会で諮問を受けた、北見市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて、素案として事務局から資料を提示していただいておりますが、計画目標値の見直しや今後の施策について、審議会委員の皆様からのご意見を伺い、答申に反映することができる場としたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、議事次第の協議事項の「北見市一般廃棄物処理基本計画見直し(素案)」について事務局より補足説明、資料等の提出があればお願い致します。</p>
大江係長	<p>廃棄物対策課計画担当係長の大江です。よろしくお願いいたします。</p> <p>説明は座ってさせていただきます。</p> <p>本日は、皆さんのお手元にお配りしています資料の確認をします。まず、式次第の用紙、表裏になっているものと、用語説明になっているものの1枚もの、横の形式になっているものの資料で、一人1日当りのごみの排出量の横版になっているもの、それと審議会の名簿を付けさせていただきます。</p> <p>本日は、大変申し訳ないんですが、前回お配りした一般廃棄物処理基本計画の中間見直し素案という資料に沿って、進めさせていただきたいと思います。この素案は、前回、簡単な説明させていただいて、前のほうから順番に委員の皆様から質問等をいただいております。それを今回は更に煮詰めていきたいと思いますので、ご審議のほどお願いしたいと思います。</p> <p>今お配りしている1枚物の資料で、用語の説明というものを付けさせていただきますが、前回の審議会の中で、資源物もごみとして扱うのか。ごみの概念を説明した方がいいのではないか。という意見をいただいております。そういったことを踏まえて、ごみがどんなものがあるのかということも含めて、ごみの排出量の考え方、処理量ですとか、一人一日当りのごみ量ですとか、そういったものを資料の中に何らかの形で盛り込んでいって、資料全体の理解を深めていこうという工夫をしていきたいと思っております。全体を見直して。説明等が必要だということであれば、改めてご提案いただければと思います。資料の作成時点では、市のほうで北見市総合計画の見直しを策定中です。その中で、人口の推計が固まっていないということで、見直しの素案を作成していま</p>

したが、これが、11万8千人ということで固まったようです。ただ、まだ、作業段階ですので、自治区毎の人口ということとかが未だ固まっていないということで、ごみ処理の計画ではそういった数値を使用して計画していくということがございますので、まだ、こちらの廃棄物処理計画の資料の方ではまだ反映されていないので、未完成な部分があるということをご理解いただきたいと思います。

それで、前回お配りした計画の中で、内部で議論した結果、見直した方がいいのではないかとあったことが、何点かございましたので、それについて、資料に沿って説明したいと思います。

先ず、事後評価を自己評価だけではなくて、委員の皆様から見てこういった評価が必要なのか、というような視点からも意見を伺いたいのですが。（前回の資料の無い委員に再配布）

表であるとかグラフであるとかの数値の見直しはこれから行うのですが、それ以外の部分で、11ページの下の方に「施策ごとのごみ減量効果の検証」という細かい数字で示していたんですが、それは、前回の計画の中で、こういった施策の中で何割減らすといったような目標を掲げて、減量効果はどうかということ、指標にあったものから作成したものなんですが、中々、予測できない要素が色々ありまして、他の町の事例を見ましても、こういった不明瞭な資料はふさわしくは無いのではないかと、ということで、その部分については、削除させていただきたいと思います。それから、12ページからこれまでの取り組みの評価ということで、何ページかに渡って○×で評価しているものなんですが、この中で、評価の指標としまして、◎目標達成、向上。○が現状維持。△が後退。×が未実施、評価不能。として、そういった評価の報告として表を作成しておりますが、△後退というのは、どうも、馴染まないのではないかと。一生懸命取り組んだとしても、目標に達しなかったのが△で後退というのは、そういった評価のなってしまうということにもなりますので、△という評価方法をなくしてはどうか。と内部で議論したときに意見が出ておりましたので、見直しをさせていただきたいと考えております。その他、細かいところでは、◎は何が、○は何が当てはまるのかといったことは、今後、検討していくことになっていくかと思っております。文章表現的に不自然な部分もありますので、その辺も見直しさせていただきたいと思っております。

それから、16ページからのごみ処理基本計画についてでございますけれども、計画の数字については、新しい数字に基づいてより正確な数字に置き換えて見直していくということでございます。この辺は、表の体裁であるとかそういったことも含めて見直していきたいと思っています。

それから、21ページのごみ処理費用については、平成24年度の原価計算ができましたので、この数字は新しくしていきます。

24ページの中断くらいに組成調査の結果を載せてございますけれども、これも見やすい表にしていきたいと考えています。

ということで、より正確の数字、見やすい表に改めていくという風に見直していきたいと考えております。

それから、30ページ以降ですが、第2章のごみ処理計画、この辺に関しては、基本的な理念などは現行の計画を継承していくということで、進んでいきたいと思っています。ただ、31ページの下のところ「みんなでごみの減量化に挑戦」というスローガンを掲げていますが、これが、計画の目標値の変更となった場合にふさわしいスローガンかどうかということで、目標値、計画全体の雰囲気にあったスローガンに変更することもあるかと思っています。

32ページから計画の数値目標ということで、素案の中でお示ししているのは、仮に10パーセント削減した場合の例ということで、今の計画の表をそのまま使用する形で平成19年度の実績値、平成24年度の実績、平成30年度の目標ということで、一人当たりのごみの量ですとか、リサイクル率ですとか、そういったものを提示しています。この10パーセントの目標値をどうするかということで、本日、お配りしていますA4版の横の資料に10パーセントにした根拠、考え方を資料を基に説明したいと思います。この棒グラフと折れ線グラフが重なっているグラフでございますが、これは、平成12年から23年までの実績。棒グラフが北見市の実績で、折れ線グラフの塗りつぶした丸が北海道、白抜きになっているひし形が全国、ということでございます。平成12年からのグラフにしているという理由は2つございまして、1つは、国が循環型の施策を行ったのが12年度ということと、偶々、北見市が、この廃棄物処理施設が平成13年から供用開始されて、平成12年12月から分別開始されたという節目でもありますので、平成12年からのデータを取っております。分別が始まって

から、北見市もごみが減っていています。16年が突出してごみ量が増えているんですが、これは、平成16年11月の家庭ごみの有料化の影響を受けたものでございます。その後、次第にごみは減ってきてまして、この基本計画が策定されたのが平成21年3月ですが、基準となるのが平成19年で、一人当たり1,079gで大体全国と同じ位、北海道と比べても少し低いくらいという値です。その後、20年、21年と北見市のごみは減ってきましたが、22年から3年間ごみは増えているという状況でございます。この状況を踏まえて、これから平成30年の目標を考えるときには、どうしたら良いかということで、増えている中でどういう風にやっていくかということで、そこでは色々悩みがございました。次の2枚目の資料ですが、北見市が、ごみが増えてきたのが、北見市だけの特徴なのかどうか、疑問に思いまして、道内の主要都市のごみ量を調べまして、お示ししています。この中では、有料化によってごみが減ったというものを除けば、多くの自治体でごみが増えたり減ったりを繰り返している状況が、この表から見て取れると思っています。北見だけが偶々ごみが増えています、北見だけの特徴ではないと考えています。そして、下の表は、それぞれの町で指標の作り方に色々違いがありますが、基本計画に掲げている目標値となっています。この中で、真ん中から下辺りに、削減目標ということで、基準年がそれぞれ違いますが、旭川市は15%、函館市は5.8%、釧路市は1.8%、帯広市は25%、江別市は3.1%となっています。札幌、小樽、苫小牧については、基準値と目標値の前と後で有料化を挟んでいますので、あまり参考にならないと考えています。有料化の影響の無い自治体の平均を取ってみると、約10%の目標値になります。これもひとつの目安として10%というのが道内の主要自治体の平均的なものと感じています。それで、今まで30%削減という大きな目標を掲げていたんですが、現状としては、中々、そこには達成できない。という中で、後期の目標については、見直していく必要があるということで、10%減という目標を掲げることが妥当ではないかと考えています。ただ、10%減らすといいましても、量でいいますと19年実績比で8,500tくらい。平成24年実績と比べても4,500tくらい減らさなければいけない。ということで、そんなに容易なことではない。厳しいものがあると思いますけれども、この間の北見市のごみの量についていいますと、最も減ったときで一人当た

	<p>り 981 g くらいで、基準としてこれを下回ることを目標にするということです。ということ踏まえていきますと、一人当たり平均でいきますと、971 g ということになります。ということで提案させていただきたいと思います。</p> <p>それから、素案の方に戻りますけれど、そういった目標を設定するためには、これまでの施策を追っていかねばいけませんので、新たな基本方針と基本施策ということで様々な施策というものを掲げていますけれども、審議委員の専門的な立場から何か無いか提案をいただきたいと思っています。</p> <p>生活排水処理計画については、人口等の細かい数値が入っていないということで、企業局が中心になって生活排水のシュミレーションを作ってくださいことになってはいますが、こういったことで準備の方が間に合いませんでしたので、今回はまだデータの修正は行っていません。</p> <p>以上で私の方からの説明を終了しまして、ご意見、ご審議いただきたいと思います。</p>
堀内会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>今、前回示された廃棄物処理計画中間見直し素案の修正、補足説明について事務局からお話いただきましたけれども、今の説明について何か質問、意見等ございますか。</p> <p>この後、この基本計画に沿って順番に見ていって、その時に何かご意見等ありましたらいただきたいと思います。</p> <p>とりあえず、今の市の説明に対して何かございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、手元にあります北見市一般廃棄物処理基本計画の中間見直し素案に従って、もう一回見ていただいて委員の皆様からのご意見をお願いしたいと思っています。</p> <p>先ずですね、1 ページの総論なんですけれど、6 ページくらいまでで、ご意見、ご質問ありますか。</p>
谷嶋委員	<p>私は、前回、出席できなくて、今、読んでみたんですけれども。その中で、中間見直しをしていく。ということなんですけれども、話を聞いていると、ごみの減量をしていくということがポイントだと解釈しましたが、それでよろしいですか。また、それに加えて何かあるのか。お伺いします。</p>
大江係長	<p>計画の中で見直す項目は、どのような変更が必要かということで、目標に対して実績がどうかということで、減量化目標数値を</p>

	見直していくことが求められていると思います。ごみ処理計画で優先される事項としては、ごみの減量化、その後に適正処理、不快感を与えないごみ処理などがありまして、やはり、優先されるのはごみの減量化にどういう方針を持っていくのか。ということが重要だと思います。
谷嶋委員	ごみ量は増えていますよね。
堀内会長	他に何かございませんでしょうか。 私の方から1つ。前回の審議会でもあったんですが、2ページにあります計画の位置づけというのがありますね。赤く枠がある北見市一般廃棄物処理基本計画というのがありますけれども、これは、数年間の計画を指し示しています。行政の目標を示している訳ですね。これを踏まえてその下にある実施計画というのがあるって、それとそれを実施した実績の報告とが対応していなくて、よくわからないというような話があったと思うんですよ。そこら辺については、先ず基本計画があって、実施計画があって、その実績が報告されると。本来そういうものだと思うんですけども、そういう理解でよろしいですか。
岩谷課長	基本計画は10年間の計画でございまして、中間の5年での見直しを今やっているところですけど、毎年、基本計画に基づきまして4月に実施計画を作成して、6月に審議会に報告しています。これまで、実績をまとめるのは、3月末の実績ということになりますので、それを報告するのが6月くらいになるということになりますので、計画と実績にはどうしても月数のずれというものができてしまうものでございます。その中で、見込みを立ててやっていくというものが、これまでの実施計画の実態でございまして、数字が3月31日にすぐに分かれれば、実施計画を策定する上でより精度の高いものになるんですけども、ごみ量を把握するなどの点で、やはり、ずれが生じている。そのような状況の中で、やらざる得ない状況です。
堀内会長	その時にあったのは、そういった話ではなくて、例えば、基本計画、実施計画の中にある色々な計画書上の数字が、計画の中にある項目が、処理実績に入っていないとかですね。実勢計画の中で排出抑制とか資源化の方策でこういうことやります。という色々な方策を書いているんだけど、これをどのようにしたか、というようなことが報告の中に無い。というような話だったと思



	<p>います。それについては如何ですか。</p>
岩谷課長	<p>毎年、審議会の中で示しているのは、先程お話ししました実施計画、処理計画ということでございますけれども、実績報告も含めて来年度以降やっていきたいと考えています。</p>
堀内会長	<p>わかりました。</p> <p>この基本計画の項目が実施計画の中に書かれていて、実施計画の結果が実績報告の中に項目として書かれている。という一貫性がとても大事だと思いますので、同じ用語、同じ言葉を使って同じように書かれていることが必要だと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、7ページ以降の第2章基本計画の進捗状況の把握というところに入ります。数字とかデータとかがありますけれども、11ページくらいまであります。先程、11ページの表1-4は削除したいというような話だったんですが、わからなかったんですが、ここにある数字とかが、ちょっといい加減で当てにならないものだから、出たくないという理解でよろしいですか。</p>
大江係長	<p>いい加減ということではないのですが、基本計画の中で、ここまで細かく評価している他の自治体の例がありません。ということが1つ。定量的に、例えば、レジ袋であれば、組成調査をやって数字を把握するといったことはできるんですが、その他の施策でゴミが増えたか減ったかというのは、目標値に対して、ただ比較するだけで、あまり意味の無い数字になってきてしまいますので、そこら辺が、計画に載せるということにはふさわしくないのではないかと考えてございます。</p>
堀内会長	<p>7ページから基本計画の進捗状況ということで、ゴミ排出量の推移ということで、ゴミの排出量を見るときに、一人当たりのごみの排出量ということで表すのが一般的なようで、このようなことで比較となっています。市民一人当たりがどのくらいになっているのかということで、大体、一人当たり1日あたり1kg前後ということになっていますけれども、これについて如何でしょう。今日新たに加えられた資料も同じような主旨のデータで、過去十数年にわたるごみ量です。ごみの分別収集、有料化を開始することによって、長いトレンドで見ると1.3kgくらいだったものが、1kgくらいまでに減ったという経過でゴミが減ったんです</p>

	<p>けれども、平成20年から21年にリーマンショックがあって不景気になるごみが減るということになるのかもしれませんが。それからまた、少しずつ増えていくという風に見えると。ただ、2枚目のデータを見ると、他の市町村でも同じように増えているのかというと、そういうことではなくて横ばいくらいで、北見市だけ増え気味であるということな訳です。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。</p>
高橋委員	<p>先程の説明に関して、増えているところは北見市だけではないということにはならないと聞こえたんだが、何で増えているかという理由ははっきりしない。増え方が劇的でないということは、落ち着いてきたからだということも考えられますが、そもそもの理念が、3つのRを使って、再利用を進めて、リサイクルも進めて、そして、生活様式を変えていくことで、ごみを減らしていきましょうという理念なんでしょう。実際には、増えていて、3つのRの施策なんかは、全くいい影響を及ぼしていないということになるんじゃないかと。一般市民がこれを見たときに、私と同じ疑問を持つと思うんですが。北見市民の生活様式をどういう風に変えて、ごみを減らしていくのかという基本理念を北見市として謳っていたんだからいいんじゃないか。そういう風に我々考えているんですよ北見市として、皆さんがんばってごみを減らしていきませんか。と。つまり今までの大量消費、大量生産、大量廃棄という資本主義社会の悪弊を断固として止めて、もっと物を大切に、大いに再利用して出すごみを減らしていきましょうじゃないか。というようなことを書いてあったし、そのつもりだったんでしょう。だけど、実際にやってみた中で増えているということは、市民の意識も変わっていないければ、それに対応する施策もなにもしていないということなんじゃないですか。結局のところ、会長が仰っていた、計画があって、実績があってというところの項目の不一致というのは、やることに理念が一本筋が通っていないからだと思うんですよ。その場その場でそれぞれの部署の作文を付け合せただけで、そうやって継ぎはぎしたものだから、整合性が無い。一番の理念のところ、それがどうやって実現しているかの検証も甘ければ、その次にどうするかという反省も無い。こういう場でよく言われるPDCAサイクルになっていないんじゃないんですか。この増えている原因というものに対して、北見</p>

	<p>だけではないのであれば、道はどう考えているんですかとか、全国は平均が減っているという数字が出ているのであれば、道と全国の違いは何なんですか、北見と道との違いは何なんですか、という現状の問題点をきちんと炙り出していかないと、それに対してどうするという次の計画のアクションも出てこないのではないかな。</p>
堀内会長	<p>ありがとうございました。如何でしょうか。 ごみが増えている原因を市としてどう考えているのかということですが。</p>
岩谷課長	<p>要因がこれだということは言い切れませんが、1つ北見市的に傾向を見れば、人口は減ってきているにもかかわらず、世帯数は核家族化による状況か、増えてきています。世帯数が増えるということは、排出されるごみの量も増えるということが考えられます。これは22年以降の社会状況を見ていけば分かることです。それと、16年10月から有料化実施をしていますけれども、リバウンドが数年してから、意識的なものもありますけれども、また、リーマンショックが20年にありまして、経済的が回復傾向にあれば当然、ごみも増えると思います。全道的にも、札幌は21年に有料化しています。札幌のごみは全道の3割ほど占めますので、全道平均に跳ね返ることになりますけれども、北見的には色々な要因で、粗大ごみが増えているといったことが考えられると思います。増える要因としては、こういったことかと思えます。ひとつの要因として。</p>
谷嶋委員	<p>平成25年度に917gという減量化する方法にポイントが無いですね。答えが出てこないですよ。こういうことをやってきて、減量化が進んでいるというプロセスが何処にもないんです。その辺をもう少し話してもらえないですか。</p>
堀内会長	<p>いかがでしょうか。</p>
岩谷課長	<p>これまで取り組んできたプロセスが見えないということでしょうか。</p>
谷嶋委員	<p>この917gってなんですか。</p>
堀内会長	<p>21年度に計画を立てたときの削減目標30%を一人当たりのごみ量で表したときに、30年度までに均したときに計算される目標数値です。中間ではこうなりますという数値です。こういう数値だと無理なので、どうしましょうかということです。</p>

高橋委員

結局、なんでこういう結果になったかとい説明の方がよっぽど説得力があると思います。私は、それならある意味ストンと落ちます。むしろ、人口が減っているのに世帯が増えているだとか、高齢化社会を迎えた家族構成の変化だとか、そういった計画策定時に織り込めるような、想定できるようなことを原因に求めるようなことは、いったい何のための計画だったのかとなると思います。結局、リバウンドといったこともありましたけれど、今、微増なんだからリバウンドではなかろうかと思うんですけれど、いずれにしても、計画で3割も減らすと。30年に。そういう風にして、それに至るには、それなりの仕掛けをしなければならないというには、前の会長の海老江さんも言っていたと思うんです。それに対して、その数字に対して本当に大丈夫なのか、ということも心配としてはあって、だけど、それに向かってがんばって施策をやっていこうということで論議されているわけだから、それで中間年になってできませんでしたと。出来なかった理由も明らかにしなくて、出来なかったからといって数値だけを変えるという話は、北見市民に公開されたときに何だと。「やっぱりな」とかしか思われたいのではないかと。もう1つ、真摯な反省文というか、正しい反省というか、出来なかったのはこういうことでうまくいかなかったということがきちんとないと、当然、これを受け取る北見市民は、政策というものについての信用、信頼というものも得られないだろうし、それに協力しようと気にもならない。という訳で、もっと、原因、現状については、誰が見ても、そうなのか。という文章なり表現で無ければいけないと思います。うまくいかないのは北見市民が悪いという極端な論拠だって、それが、明確であれば納得のいくものだと思います。だから、北見市としては広く呼びかけてこういう風に、ごみを減らしていきます。ごみを減らしていくのはそれだけの必要性があるんですと。まして、ごみ処理場が一杯になります。排出抑制に協力しませんかと言えはするでしょう。後5年しかもちませんといえば、持たすように協力してくれると思いますが。理念だけでは動きませんから、金を取れば減ると言うこともありますけれども、これから先に劇的な変化が使えないとすれば、やはり、訴えかけていく訴求力、訴えかけていく言葉の力というものをきちんと成果なり政策なりに出していかなければならないと思います。もう少し、迫力のある素案なり見直しなりにしていくべきではないかと思ひます。

堀内会長	<p>市のほうから何かありますか。</p> <p>要するに、見直しに当たって過去5年間の実績だとか現状にどうい問題があって、何故そういうことをしたのかと、いうことをもうちょっと分かりやすく、クリアに整理をしてそれぞれ解消するためには、今後こういう新たな策が必要です。とかわかりやすい表現が必要ではないかとの主旨だと思います。そういった意味ではいかがでしょう。</p>
岩谷課長	<p>当初、16年に有料化をして、19年をベースにこの計画を作りました。有料化した後、17、18年にごみ量は落ちるんですけども、それから、21年から10年間で有料化後の10%の削減は、目標の高い数字だと思います。いろんな議論があって、本当に出来るのだろうか、一般的には、有料化を見込んだ中での削減ということで、10%でも20%でもいいんだけど、増加しているのは何が原因かと、どういうことに取り組んで、何が出来なかったのかということ、41項目くらいあるんですけども、その評価というものは先程、担当係長から説明したものです。どれだけの数字で表せられるかというものは、中々拾いきれない。今後、項目についての評価もしてもらいますけれども、やってきたことはやってきたつもりでございますので、その結果として数字に出てこなかったということでございます。ただ、基本的な施策について変えていくことは考えてございませんけれども、こういう施策をしたら目標を達成するということで、調査や継続、新規だとか審議会の中で提案していただいて、提案している計画の素案を進めていきたいと考えています。</p>
堀内会長	<p>何だかすっきりしないと思いますが。</p> <p>要するに北見市として、市のごみ処理の担当者として、北見市のごみが何故増えてきているのか、原因が色々出てきていますけれども、原因がはっきり特定できない。ということだと思います。単身世帯が増えているとか、高齢化が進んでいるというのがありますけれども、それは、道内の他の自治体でも同じような事情だと思えますよね。そういうところでも増えていないところもある訳で、北見市の固有の事情があるのかと。ただ、市民に聞いても、審議会の委員に聞いても答えが出てくるということは無くてですね、北見市の廃棄物処理の直接担当する方は、この道のプロフェッショナルな訳ですから、責任を持って把握していただくことが第一だという風に思います。</p>

	他に何かご意見等ございませんでしょうか。
斉藤委員	<p>一人当たりのごみの量が増えたのは事実ですよね。</p> <p>そうしますと、12ページのこれまでの取り組みの評価の中で、後退を削除するということですがけれども、ごみが増えたっていうことは、後退していますよね。評価は△（後退）があってもいいんじゃないんですか。×とか。何年かで増えたんですよね。評価としてはいいということではないですよ。ごみが増えたということは、マイナス評価ですよ。それは、この○×に実績が反映されていない。</p>
堀内会長	<p>○×の通知表を見ると成績優秀に見えるんだけど、全体的に見たらまずかったと。</p> <p>何かありますか。市のほうから。</p> <p>それでは、12、13、14、15の取り組みの評価ということですが、ここに書いてある基本方針は、計画の項目になるので、それで、過去5年間の取り組みの評価ということになるんですが。</p> <p>何かご意見ありませんでしょうか。</p>
坂口委員	<p>生活をする上である程度ごみが出るということは、致し方ないことですが、全体で減らす努力をしなければいけない。それ以上に大事なのは、そのごみを再利用、再資源化する。リサイクルの比率を上げていく努力が、特にあまり見えない。例えば、燃やすごみの中に生ごみを入れる。相当な量になるだろう。留辺蘂は、そのまま続けていくということで、留辺蘂の生ごみは別に分別して、堆肥化のリサイクルにしている。トータルの中で、前回、言いましたように、我々の町内会でも古新聞、ダンボール、雑誌を業者にリサイクルのために引き取ってもらっている。こういうことが、実際地域の中で実施して奨励金、留辺蘂自治区だけだろうけれど、これをもっともっと他の町内にも進めれば、リサイクル率が上がって、相対的にごみの量は減らないんだけど、リサイクル率は上がって、実は有効利用が出来てるんだ。不要物イコールごみは減っているんだ。というようなことを再度見直したほうがいいんじゃないかと思うんです。</p>
堀内会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>市のほうから何かありますか。</p>
岩谷課長	<p>そうですね。減量化とリサイクル率というものは、目標としてもっております。中間の25年度の目標は、当初の目標には達していないということでございます。しかしながら、リサイクル率</p>

	<p>もさることながら、いかに適正に分別されて資源化するかということが大切ですけれど、最終的には市の目指すところというのは、こういうところに繋がっていくんですけども、ただ、最終処分場をいかに長く使えるか、いかに延命できるかということから逆算しまして、分別化、資源化ということが高まれば高まるほど、リサイクル率が高まれば減量化に繋がるとは、確かにはいえませんが、まずは、適正な分別を進めていくということで、進めておりますし、これからも進めていきたい。それと、今、仰られた取り組みですけれども、集団回収の取り組み。これは、もちろん、北見もやっているところも沢山ございます。それに対する奨励金という考え方に対してはありませんし、合併前の自治区については、継続していただいているということでございます。言われていることについては、できるものについては十分考えております。</p>
堀内会長	<p>他に、取り組みについて、今後の目標とも関連しますので、何か意見等ありますでしょうか。</p> <p>それでは、私の方から1つ。これまでの取り組みの評価ということではなくて、今後の目標ということになることになるんですが。ここ12ページに書いてあるのは、市として行っている色々なごみを減らしたりする施策な訳ですよ。色々な施策のリストアップです。いまざっと見たん出すけれども。北見のごみが、7ページに減らないで増えているという理由として、いくつか書かれていますが、高齢化、核家族化による世帯数の増加、施設利用による転出、これは高齢者が施設を利用するときに自分の荷物を処分するときにごみが出るといった話だと思うんですが、そういう問題に対して、例えば、そういった世帯に対する、こういうことを行えばごみを減らすことが出来るという施策が何も無いんです。それから、高齢化が進んで高齢者から沢山ごみが出ますという風に書いてあるんですけども、高齢者を対象にして、施設に入る人の不要なものをこうしましょうとか、どうごみを処理しましょうとか、そのためにはどうしたらいいでしょうとか、そういう施策というのは具体的にはないですよ。一般的な文言はありますが。もっとこういうことの問題を高齢者世帯数の増加というものにとらえているのであれば、それを解消するための具体的な行政の施策というものを考えて計画の中に入れていくということがないと、中々、ごみを減らしていきましようということにならないのかと思うんですけども、その辺いかがでしょうか。</p>

<p>岩谷課長</p>	<p>当初計画の中では、高齢化対策という大きなものはありますけれども、施設入所するに当たって一件当たり、かなりの量が出てきますので、そういうものの対応の仕方というものについては、具体的に載せてはおりませんが、その辺を含めてどういう形がいいのか検討して、後期計画に反映していきたいと考えております。減量化といいますと、最初に配りました資料にありますとおり、排出量の考え方というのは、家庭から出たもので市が扱うものは全て排出量ということなんです。ですから、市が扱わないようにするには、どうすればいいかということなんですけれども、難しいことですが、リサイクルショップに持って行って頂ければ、商品になったり、リサイクルショップから排出されれば産業廃棄物になりますし、いかに他に回していくのか。資源化できるものは資源化していく。発生を抑制していくということは、難しいことでもあります。例えば、家庭から出てくる生ごみに関しては、堆肥化するだとか、ひと絞り運動を推進して今後5年間していけば、数字の上では減量化の結びつくと考えています。</p>
<p>堀内会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、時間もございますので、話を続けさせていただきたいと思えます。</p> <p>16ページのごみ処理基本計画。16ページから29ページくらいまでですかね。何かご意見ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>これは、ごみの減量化というよりは、どのように収集して、どのようにごみを処理していくのかという話を中心になっていくと思えます。北見市のごみ処理費用ということで、21ページですけども、年間で22億円ですと横ばいになっています。収集運搬費用は恐らくごみを収集してここまで持ってくる費用、処分費用はクリーンライフセンターの運営費用と最終処分の埋立費用に関するものという風に思いますが、これは、あれですか。ごみの処理費用というのは、今後もこのまま推移すると考えておられるのですか。</p>
<p>今次長</p>	<p>費用につきましては、処理施設なんですけど、平成13年度に稼動してまして、13年経つんですけども、焼却施設がやはり老朽化してきているということがありまして、来年度の平成26年度から5カ年の計画で焼却炉等の更新、長寿命化を実施することになっております。それが、5カ年で事業費としては、約22億円程度を予定しておりますが、そういうものを含めると、事業費を均しますと27億円程度になると思えます。施設の更新費用も入</p>



	れるということになります。来年度につきましては、2億円程度を予定しておりますので、24億円程度の事業費になると思います。
堀内会長	それは、ここで書いてあるごみ処理費用が、今後増えるということになると、各家庭で負担してもらっている手数料に影響はないですか。
今次長	この事業は、国からの交付金と起債といわれる借金と一般財源から成ってまして、交付金の部分については、外れるということになりますけれども、それ以外については、手数料・使用料について跳ね返ってくると思います。
堀内会長	それは、値上げがあるという話ですか。
今次長	それについては、今の段階では…。
吉田委員	交付金の率は。
今次長	交付金の率は2分の1です。残りの50%の内の95%が起債です。その他が一般財源です。 申し訳ありません。借金を返しますから、その分は出てきますけど、交付税措置されますので、全額ではありませんが国からお金が入ってくるという状況になります。
堀内会長	処理施設は、それほど早急に改修しなければいけない状況なんですか。
長谷川所長	ごみ処理施設は、一般に他の公共施設と異なるんですけど。焼却施設ですので、寿命が他の一般の公共施設より短いことが挙げられます。それで、ごみ処理施設は一般的に20年程度ということになっています。今、市や国が財政状況が厳しい中で、今の流れでは、新しく建て替えるのではなくて、大規模な基幹的な整備を行いまして、施設を長寿命化するということが流れです。北見市も国の交付金が22年度に循環型社会交付金とうメニューのなかに加わりましたので、この交付金を活用しまして長寿命化をすることで進めています。耐用年数が一般的に20年なんですが、長寿命化ということで、更に10年寿命を延ばして、平成42年度までごみ処理施設を稼動することを計画しています。ベルトコンベアーなど耐用年数が短いものがありますので。
堀内会長	一つ一つのものを直して30年使うということですね。元々、ここの焼却施設は、建設費はどのくらいだったんですか。
長谷川所長	55億円くらいです。
堀内会長	55億円に22億円かけて10年間寿命を延ばすという話です

	ね。
吉田委員	5年間で22億円ということですか。
岩谷課長	確定したものではなく、あくまで、見通しとしてです。
堀内会長	市民としては、ごみ処理場の更新というか、長寿命化をすることで、お金が20億掛かると。その結果として、ごみの収集料金、ゴミ袋の料金に反映される可能性があるということは、計画の段階から早め早めに市民に周知して知っておいてもらわないと、作ってしまってから上げるとか、ならないですよ。我々も今始めて聞いた感じなので。
岩谷課長	手数料の関係ですが、市のごみ処理手数料はゴミ袋ですね。市には、色々な手数料があります。手数料の見直しは4年に1回ありまして、前回22年に見直しをしました。ですから、次回の見直しは26年度にあります。その中で、これも手数料ですので、議論していきます。見直す見直さないといったことは、別の問題でございまして、今のままであるとか、上げるだとかは考えてございませぬ。一般論としても、全道的にも10年以上のスパンが経っていない。料金を上げたという事例もありませんし、北見市だけが先行して行っていくということも考えてございませぬ。状況を見ながら、他のものが上がっているという状況がありますが、負担の割合であるとか、他の市の状況であるとか考えながら、判断すべきことだと思ひますし、この計画の中でも考えていくことだと思ひます。
堀内会長	わかりました。他に何かございませぬか。
斉藤委員	これは、確認なんですけれども、29ページで不法投棄の回収、北見市が処理しないごみでパソコンがありますけれども、小型家電リサイクル法で北見市がパソコンを処理できるようになっていませぬよ。くるるんきたみでの実験だとか、秋の小型家電の回収ですとか、いずれこの記載が変わるのかとも思ひますが。まだ、北見ではやるとは決めていないと思ひますけれども、今まで、北見市ではパソコンを受けないとしていませぬが、現に受けていませぬので、パソコンは処理しないごみではなくなるんでしよるか。
伊東部長	申し訳ございませぬ。次の会議がありますので、この場を、退出させていただきます。よろしくお願ひします。
岩谷課長	今のパソコンの取扱の現状ですが、パソコンはパソコンのルートで処理してもらおうというのが、考え方で、4月に使用済み小型家電の法律ができました。その取扱をどうしていくか。自治体に

	<p>よっては、取り組んでいるところ、いないところあると思います。今、北見市においては、イベント回収、11月にもイベント回収をやりましたけれども、正式な取り組みというのは、まだ、決定してございません。従って、パソコンはこれまでどおりの取扱となっています。そのほかの使用済み小型家電については、市の処分場に持ち込む場合は、燃やさないごみという形でございます。予定では、計画は持っていますけれども、具体的に施策の方針には記載していません。</p>
堀内会長	<p>他に何かございませんでしょうか。そうしましたら、時間も大分押していますので、ちょっと話を進めさせていただいて、30ページからのごみ処理計画。これは計画の中核になるわけですが、これについていかがでしょう。第2章の、35ページくらいまで。基本理念と基本方針があつて。ポイントは計画の数値目標というあたり。30%の目標を掲げてやっていたんですけれども、現実問題として5.6%減に留まっているので、ここで作った資料としては、19年度を基準にして10%。平成24年度を基準にした場合は、4.7%減にするという案になっていると思いますが、目標ですけれども、こういう大きな変更ということになりますと、そもそも目標とは何だということになるんじゃないかなと思うんですね。目標というのは、理想の姿を示してそれに向かってやっていきましょう。というのが目標だと思うんですね。30%減ということですが、例えばここに書いてあるようなトータルで10%、これは世間的に見ても実現可能な妥当な目標に変更するというのもひとつの考え方。これについて、委員の方々いかがでしょうか。</p>
高橋委員	<p>30%を10%に大きな変更をするからには、理由があつたということなんだろうね。そもそも30%が一部審議委員の理想を語ったと受け止められているのか、それとも、目標を立てたときは何とかやれると思って作っていたのか、事務局としてはその辺りをどういう風に受け止められていたのか。この後、本当に30%が無理だという理由も見通しとして伺いたいと思います。</p>
堀内会長	<p>いかがでしょうか。</p>
岩谷課長	<p>策定のときの審議会の中では、やっていこうということで、これだけの当初の施策がありますけれども、逆算して作っている訳なんですけれども、生ごみの堆肥化というものを含めて検討してやっていきたいと思います。生ごみが一番重量がありますから、それ</p>

	<p>を堆肥化できればということで。ただ、減量化には直接繋がるものではないですけども。やるのであれば市の目標として、高い目標を持つということで作られた訳でございます。それが、中間年の5年間でどうだったかというところでは、納得のいくような理由といますか状況といますかケアされていない部分がありますけれども、中間年見たときに今後はどうなんだといったときに、今後のさい先どうなんだと、増えていってしまうと。あと5年の間に30%を減量できるのかと。ごみが増えていっても30%を達成するためには、そこまで市民に求めていって、負担をかけていくことが可能かどうか内部で議論しましたが、かなり難しいというのが現状です。ではどうするか。道内の平均を調べて、それを下回る(重量)ようにするために目標を置き換えたところですけど、各市の状況が違うので、これがいいということは怪しい部分がありますけれども、相対的に10%はやりたいと。希望的なところもありますけれども、目標を持ったということです。これまでの取り組みを一層強めてやっていかなければならないという覚悟、覚悟だけではだめかもしれませんが、短い5年間ですけども取り組んでいかなければならない気持ちでございます。</p>
堀内会長	<p>いかがでしょう。</p>
谷嶋委員	<p>30%の目標が、全然、目標が達成できない訳でしょう。私は、やり方によっては、小さな会社を経営してますけれども、やり方によっては出来るんですよ。その手法というのは、例えば、44個の各問題があるでしょう。これを論議したところで、すっと流して終わるじゃないですか。そうではなくて、ひとつの課題に向かって一生懸命に努力するんですよ。一点集中です。先ず、1つをきちんとやる。これを3日でも1週間なら1週間かけてきちんとやる。そして、次に移る。その時にこれは捨ててしまうんです。そうしたら、忘れてしまうんです。忘れてもいいんです。そして1回とおしてやって、また戻ってくるんです。しっかり、きちんとやるんです。そういうきちんとした考えを持っていないと、今のままでは何回やってもだめです。また、次回にこれ出てきて30が10でしょう。今のおりでしょう。これは、市民があきれてしまうよ。30が10だものね。私はやりきるよ。そんな風に掲げたら、責任があるもの。市民に対して責任があるんですよ。そういうことをきちんと認識してほしいんですよ。だから、慎重に論議して、みんな集まって研究するんですよ。とことんやるん</p>

	<p>ですよ。そうすると難しいことがわかる訳ですよ。私たち小さい企業は、目標を達成できなければ終わりなんですよ。一生懸命働いてそのお金を使うことによって、地域にも影響してくるんですよ。真剣に考えてほしい。だから、いい結果を出してください。</p>
堀内会長	<p>市のほうから何かありますか。</p>
吉田委員	<p>市の方ではないんですけれど。私、ちょっと勉強不足なんですけれども。北見市が、ごみにかかる経費、22億円。この内、可燃で、燃やすごみで掛かっている経費はどれくらいですか。</p> <p>答えなくてもいいです。要するに、燃やすごみというのは、北見市の要する経費を重くしているのではないかと、という気がしているんですけれども。それであれば、燃やすごみを無くするという方策をどこかにがっちり入れる必要があると思います。方策として、この中に入れていく必要があると思います。</p> <p>自分でしゃべりながら認識していこうとしているんですけれども。ごみの減量化というのは、あくまでも、資源の枯渇を防ぐためにやっているものだと私は思っていたのだけれども。だから、もう少し資源の枯渇を防ぐという項目を強く打ち出していくということで、市民の方に訴えかけて、これをできるだけごみを排出しないように訴えかけていくということが、どこかに乗せていった方が良くと思いますが。取り留めの無い話で申し訳ないです。</p>
堀内会長	<p>市のほうから何か今のコメントに対してありますか。</p> <p>今の最後のお話でもありましたが、北見市の一人当たりのごみの排出量が、3年くらい続けて増えていることを市民の人が、みんな知っているのだろうか。誰も知らないんじゃないかなと思うんですよ。そうすると、ごみを減らさなければならないという動機づけもできにくいし、有料化して5～6年経って、みんなが慣れて、ごみが減ってからの計画になっているとこの中にも書いてありますけれども。これに対する具体的な施策が何かあるのか。同じようなやり方で同じようにごみを減らしていく。ということでは、何か、うまくいかないような気がするんです。</p> <p>それで、ここの目標なんですけれども。本市の目標値と。話は戻るんですけれども、では、目標とは何かと。例えば、ここに書いてあるように10%減。24年度から比べると4.4%減らす。ただ、30%という理想的な目標に比べると、非常に現実的なんですね。道の平均をちょっと下回る程度の目標な訳です。例えば、北見市としてこういう目標値を設定するということは、北見市と</p>

	<p>しては、絶対に達成するという目標に設定したんですよね。こういう理解でよろしいですかね。この目標というのは、誰の誰に対する目標なのかということなんですけれども。こういうのを出すと、恐らく北見市が市民に対して、北見市の一人当たりのごみの量をこういう風に減らします。こういう施策を行います。ですから、ご協力ください。という主旨の目標であると。コミットメントですね。という理解でいいんですよね。</p>
各委員	<p>目標についての定義について、会長の発言に賛意多数。</p>
堀内会長	<p>ずっと経過を見てると、出来なかった場合はどうなのということなんですよね。(?)</p>
今次長	<p>仰られるとおりで、30%が10%ということだから、かなり目標としては、本当に、下がります。ただ、30%というものが、今までの推移を見てみますと、達成可能なものなのかどうか。そして、更に目標として、それが適当かどうなのかということも、ひとつあると思います。それで、我々が実際に現場で市民とお会いして、色々なことを苦情を受けたり、お願いをしたりしてまうけれども。やはり、達成できうる目標に持っていくのがいいんじゃないかと。まるっきり達成できない目標を持ってやるのは、どうなのかなと。ちょっと後ろ向きな考え方でと思われるかもしれないですけれども。我々は、是非、これを達成したいと思っておりますし。それに向けた色々な取り組みを更にやっていかなければならない。と考えております。</p>
高橋委員	<p>やっ和本音の話が聞けましたけれども、世間様並の目標にしようというのは、結論を言えば私は賛成です。可もなく不可もなくやろうというのがいいんじゃないかと思えます。目標を30%をすることが妥当かどうかということは、計画を策定するときに素案を出すときに論議してほしい。そのときに声の大きい人がいたから、黙っておこうということで30%で掲げておいて、それが何年かして無理だったというのは、一般的に言って誠実さに欠けるといわざるを得ないのではないかと。こういう場の論議というのは、目標と計画と実績と評価の仕方はこうではないのかという一括論として語られるべきものだと思うんですよ。そここのところで、字面を整えれば文章としてOKという。中身は大して論議しないで、後で直せばいい的な話の仕方は考えてもらえませんか。一応、市民のために作られて、私たちもそれぞれの立場から選ばれて参加しているわけで、やっぱり、北見市民がどういう風にす</p>

	<p>るべきなのか、北見市としてはどういう風にすべきなのか。意見を申し上げるために来ているので、そのときに、どうも、各部署の計画性というか、お互いの連携が取れていないというか、計画を上げたときに市長がお金を出してくれないというか。というような仕事の都合が見え隠れしすぎていて、あまり気分がよろしくない気がします。真摯な論議をやりましょう。その中で、そんな金が無処にあるんだという話がされれば、それはそれで納得いくと思うんです。30%が50%でもいい。生ごみもやろう。でも、そんな金が無処にあるんだ。というような論議があってもいい。1回通ったものがずっとというのは、止めにしたいと思います。</p>
吉田委員	<p>ちょっと教えてほしいんですが。 生ごみの資源化の検討というのがありまして、バイオ関係が書いてありますけれども、この辺というのは、研究等はされているんですか。</p>
岩谷課長	<p>委員も変わっているんですけども、前々回のときに、生ごみ資源化の検討ということで、視察に行ったり、今、堆肥化している所だとか、バイオガス化している所を視察して、北見市の生ごみのあり方を研究して、専門部会を設置して検討してまいりました。その結果、23年度に一定の判断をさせていただきました。というのは、平成13年度にこの施設が生ごみも処理するという施設でございますので、この施設を有効活用していくということでございます。この施設を更新できるようになったときには、生ごみの処理方法を含めて分けながらやっていくのか。引き続き、燃焼していくのか。ということを経営が来たら、また、検討していきましょうということで、平成23年度に一定の結論を出したときに、更新のときにバイオガス化だとか堆肥化だとか検討した結果を載せています。</p>
吉田委員	<p>バイオで処理するのと焼却の形で処理するのとは、価格的に比較検討したということですね。</p>
岩谷課長	<p>費用対効果であるとかそういうものを前々回のときに審議して、効率的で費用対効果的にも高いのではないかとということで、現行の施設を燃やすごみの中で生ごみを処理して行きましょう。ところで決定していききました。</p>
坂口委員	<p>今の施設をお金をかけて、更に、10年もつようにすることは、生ごみのリサイクルの方向は無いということですね。留辺蘂の生ごみだけ残すのは何ででしょうね。</p>

岩谷課長	留辺蘂の生ごみにつきましては、平成16年に施設ができたということですよ。そして、合併のときに統一ということになりましたけれども、地元の中で資源化するということもありまして、一定程度継続したいという意向がありましたので、そのようにやっていくということでもあります。
坂口委員	留辺蘂自治区は、生ごみは今やっているんだから、やりたいんだというのは、何処から出てきたんですか。実際に協議会では、そんな話は出てませんよ。何故、留辺蘂だけ別料金の生ごみ袋を買って処理しなければいけないのか。という話は出てますけれども、これは、将来的に北見市全体が、生ごみの処理をするという風に信じているからこそ、一旦、分別を開始したからがんばっていこうという話はあるけれども、何で留辺蘂だけ生ごみ用の袋を買って、別々でやらなければいけないのかという話が多いから、今、言われたように地元が希望しているからという話は、どこからの結論ですか。
岩谷課長	それは、留辺蘂の自治区の中で検討した結果、存続していくという方向性を見出したということをおたはちは受けまして、自治区の中でやっていくということでおたはちは確認しているところです。自治区の中で、協議会かは分かりませんが、そういった中で結論を出されたら受け止めています。
坂口委員	留辺蘂の課長来ているから聞いてみてください。そうした論議ありましたか。
安井課長	生ごみについての検証は、前任課長のときにさせていただいているところですが、今の北見市の施設を長寿命化するためにも、留辺蘂の生ごみは現行のままという風に聞いております。留辺蘂自治区の生ごみを堆肥化するという点については、住民自体も決着していることでありまして、悪いことではないわけですね。ですので、ごみの減量化だとか、二酸化炭素の発生量を削減できるという環境面でのメリットがあるという判断をしたところです。なので、当面の間は、現行のままできたい等結論になったと、私の方では聞いております。先程、この施設を更新するときには、その後の対策については、協議するとのことだったので、留辺蘂の生ごみについてもどうするのかということになると思いますので、当面の間は現状のまま続けていきたいと考えています。



坂口委員	<p>合併して18年から3年を目処に同じような分別に統一しましょうという中で唯一、この生ごみの問題は、そのままずるずる、今年で8年目ですか。それで、23年のときに専門部会が検討した。費用対効果でいうならばバイオガス化がいいんじゃないかと言いながら、今の時点では、生ごみの処理が出来るから。ということで前回も聞いたけれども。今始めて、今の焼却施設を更に10年間もたすように改築するということになると、生ごみの見直し、リサイクルの視点の見直しは、更に10年延びた。市全体として。だから、留辺蘂も折角定着してやっていかなければならないのではないかと。でも、ごみの減量化からいっただらば、当然、北見だって生ごみのリサイクルを取りくまなければおかしくないか。という前提の中で留辺蘂しかないけれど、他所はどうでもいい。生ごみだけは留辺蘂は積極的にやるなんて結論は何処にも出てこない。リサイクルの3Rでいけば、無用なごみ排出物を循環させる。生ごみも現実的に出来るし、やっているんだから、真摯に取り組んでくれるものだと思っていました。全く生ごみのことを考えていないというのならば、ちょっとおかしいのではないのかという気がします。</p>
堀内会長	<p>市の考え方で何かありますか。</p>
高橋委員	<p>23年度に当面留辺蘂の施設は、更新時期に考えましようとなっていたと思うんですけれども、何か、別表がありませんでしたか。何年ごろになるという。</p>
今次長	<p>留辺蘂の施設ではなくて、焼却施設を造るときに新たに考えましようということですね。23年度にそういう結論になりました。</p>
高橋委員	<p>留辺蘂の施設についても、いずれ更新していくから、その時に随時更新していく時期に話し合っていましようということではなかったですか。</p>
今次長	<p>今申し上げたとおり、焼却施設を建て替える。この施設がだめになったとき、新しくしようとなった時期に検討しましようということで、結論としてはなっています。</p>
高橋委員	<p>それだったら、むしろ坂口委員の仰ることの方が。10年寿命を延ばすのも建て直すのもタイミングは一緒だと思うんですが。</p>
今次長	<p>ただ、生ごみだけを燃やしているのではなくて、通常の可燃ごみ、生ごみ以外のごみも燃やしていますから、それは、当然、処</p>

	理をしないといけない。
高橋委員	それは、話が違うんじゃないかな。
今次長	今の施設を全く新しいものにするということになりますと、インシヤルコストが非常に大きなものになりますから、それをいくらでも先延ばしにするということが、国の施策としても求められていますので、それに添うような形で10年間ありますけれども、今の施設を使うということで計画しています。
高橋委員	その10年延ばさなければ廃炉なんですよ。それで、新しく建て直す話になって、そこで結局10年延ばす決断をして、留辺蘂の生ごみの処理については、10年間知らないということをお話したということではないんですか。そういうつもりではなくても、結果としてそういうことになってしまっている。
堀内会長	<p>だから、10年間の寿命の延長ということを決めるときに、留辺蘂の生ごみの処理を計画の中でどういう風に位置付けていくかということをお話していれば良かったんですけども、話をせず決めたから、今のような話が出るんですね。</p> <p>平成23年のときの話では、焼却施設で生ごみを処理できるので生ごみ処理施設を作らない。二重投資になって更にコストを掛けることになるので、お金も無いので、今すぐ生ごみ処理施設を作ることはどうなのか。今使っている施設がだめになったら、どうせ作らなくてはいけない。その時になったら、全体のごみ処理のあり方をどうするのかという計画です。その中で、生ごみの処理をどうするのか。ということをお考えしようという結論だったんですけども、その後の話で焼却施設を更新して10年間維持します。ということだと思います。</p> <p>大分時間が経ってしまいましたが、活発にご意見をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>30%の目標を10%に下げるといって自体、下げすぎではないか。どうやって説明するのか。というようなことはあると思うんですけども、目標それ自体の妥当性をどちらにするのか。10%の目標にしてもらって、市にそれを実現してもらおう方が、現実的だと思います。先程の話を伺っていると、あまりにも目標が高すぎて大きくかけ離れてしまうというような話だとあまりよろしくない感じがしますので、この目標を達成してもらって、そうしますと北見の一人当たりの排出量としますと、そうおかしな</p>

	<p>ことにはならないと思います。今日、結論を出すようなことではありませんが、そういうような方向性で答申を作って、次回までに皆さんに決めていただいたらどうかと思います。</p>
吉田委員	<p>10%は、達成可能だという数値ですか。</p>
今次長	<p>我々は、こういった数値は達成するものだという意気込みでやるということです。</p> <p>色々ご意見をいただきましたので、我々も精一杯努力していきます。</p>
吉田委員	<p>10%達成するために努力します。そのプラスアルファでその30%の3%くらいは努力目標として数字を上乗せするという数字を示してくれれば、信用したいのですが、30%の3分の1ということだけだと、そうなんだとしかならない。努力目標にプラスアルファの数値が3%くらい上乗せするくらいではないとね。</p>
堀内会長	<p>10%ということになってますけれども、これは、平成19年以前からの10%で、今年までに5.6%削減してますので、実質的には4.4%削減するという話な訳です。それが少ないのではないかとかありますけれど、北海道の目標値とか、道内のほかの自治体と比べて、上昇傾向に歯止めを掛けて、一定の数値以下にはしたいという目標です。</p>
高橋委員	<p>ハードルが下がったことで乗り越えられなかったペナルティも記さないといけないかな。微増とはいえ増だから、これが続けば、当然、見通しとしてだめなんだから、来年度1年で、目に見える形で下げる取り組みが必要だと思います。</p>
吉田委員	<p>相手のいることだから。がんばってください。</p>
堀内会長	<p>時間が経ってしまって大変申し訳ありません。</p> <p>最後の36ページ。目標達成に向けた具体的な施策からですが、具体的にご意見があれば。先程も申し上げましたけれども、高齢者、単身世帯のごみが増える原因として中間報告の中に赤字で書いてありますけれども、目標値のところの一人当たりのごみの量が単身世帯、高齢者の世帯で多い。そういう認識に対して、ごみを減らしていくにはどうしたらいいか。という具体的な施策をここに入れていただきたい。要するに、一番最初の話の戻るんですけども、目標を変えたのに施策が変わっていなければ、どうするのかという話になりますので、具体的に施策の見直しをしてい</p>

	<p>ただきたい。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>私、家電の回収をやってますけれども、市役所から回されて、おじいちゃん、おばあちゃんから家電を捨てたいと電話がかかってくるんですけども、郵便局に行っても説明するんですが、私、わからないんです。と電話が来るんです。電話や郵便局のお金も結構かかりますので、市として支援できるような何か対策を立てていただきたい。環境衛生部と言えば昔とは違って、今は、最先端の部局なので自信を持ってやっていってください。</p>
<p>堀内会長</p>	<p>他に何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>ここに基本方針と書いてありますけれども、今日は、細かい話で大分お疲れのことと思います。お気づきの点などありましたら、事務局までご意見を寄せていただきたいと思います。</p> <p>そうしましたら、本日の基本計画の見直しの案の検討は、終了させていただきたいと思います。</p> <p>何かございませんでしょうか。無ければ事務局からその他ということをお願いします。</p>
<p>岩谷課長</p>	<p>その他としましては、審議会に係る日程でございます。日程につきましては、今、作成中の北見市総合計画の後期計画の関係もありますので、その辺のデータも精査しまして、来年の2月から3月の早い時期くらいに審議会を開催したいと考えております。可能であれば年度内に答申をいただくスケジュールで考えております。議会が終わった2月の後半から3月の頭くらいを予定しております。</p>
<p>堀内会長</p>	<p>よろしいでしょうか。この件で何かありませんでしょうか。</p> <p>次回は、今回の出た色々な意見を踏まえて、最終的な答申案を検討することによろしいですね。ということになります。それまでにご意見等々ありましたら、ご意見を伺って、事務局の方までお寄せいただきたいと思います。</p> <p>以上を持ちまして、本審議会を終了させていただきます。長時間にわたりまして、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(16:00終了)</p>